

平成 29 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ

語学・大学留学コース

「日本の謝罪とアメリカの謝罪」

2月下旬からは比較的暖かい日が続いており、半袖で過ごした日もありました。最高気温が10度を超える日が多いです。冬の終わりとともに残された留学生活が短いことを感じています。

1月から始まった春学期にも慣れ、予習と課題に追われる毎日です。友達と助け合いながら、楽しく真面目に勉強しています。College of Business という建物でミルクシェイクを買い、勉強の合間に食べるのが私たちの楽しみです。夜8時から9時の間は毎日、半額でミルクシェイクを買うことができます。1ドルでミルクシェイクを買うことができるため、夜8時過ぎになると多くの学生がミルクシェイクを求めて列を作ります。一緒に勉強する友達と週3回、ミルクシェイクを食べます。毎日食べると太ってしまうので、週3回食べることを友達と決めました。さて、今回のレポートでは春学期の授業の様子と日本文化イベントについてご報告します。

—春学期の授業の様子—

春学期も引き続き、学部の授業を受けています。今学期は、6つの授業を受けています。6つと聞くと少ないと思われる方もいると思いますが、決してそうではありません。日本の時間割とは異なり、週に2回、3回行われる授業もあります。月、水、金曜日の週3回の授業では、授業の2日後までに予習を終わらせなければなりません。1回の予習量が教科書40ページ、そしてその授業が週3回ということもあり、大変に感じることもありますが、友達と過ごす時間も確保しつつ少しずつ進めています。今学期、特に興味深い授業は日本文化とフランス語です。



日本文化の授業の教科書。ホンダの本社で働いたアメリカ人女性が自身の経験を書いています。

日本文化の授業では、外国人が書いた日本文化の記事を読んだり、日本企業で働いたアメリカ人が書いた本を読んだりします。違う文化の視点から日本文化を考察することは非常に興味深いです。その中で一番興味深かったことはアメリカと日本の「謝罪」です。日本では自分の失敗でなくても、相手に不便をかけたことに対して謝罪をします。それは、同じことが再び起こらないように努力するという反省の意味も込められています。一方アメリカでは、自分の過ちを認めたときに謝罪をします。日本文化についての記事では、実際に起こった事例が紹介されていました。

海外の運送会社が日本の会社の商品を運搬していた時、台風によって商品が沈んでしまいました。その日本企業は運送会社からの公式な謝罪を求めましたが、運送会社はそれを拒否しました。なぜならば、台風は自然の力によって起こったことであり、運送会社のせいではないからです。それを聞いた日本企業は運送会社の対応に腹を立て、それ以上の取引を拒否しました。

文化の違いに気づくこと、またそれを乗り越えていくことはとても大切なことであると改めて実感しました。どちらの文化が「正しく」、どちらの文化が「正しくない」とは言えません。コミュニケーションを取り、お互いが納得できる結論を見つけることが重要だと思います。

—日本文化イベントの様子—

2月は日本文化を紹介するイベントが2つありました。1つ目は大学の近くのコンサートホールで行われた太鼓パフォーマンスです。YAMATO という太鼓パフォーマンスグループがフィンドレーに来ました。広いコンサートホールが満員になりました。とても迫力のあるパフォーマンスで圧倒されました。手拍子をしたりして演奏に参加をして楽しむことができました。日本の文化を誇らしく思いました。終演後には多くの方がパフォーマンスの方とのお話し写真やサインをお願いしていました。私も一緒に写真を撮ってもらいました。



太鼓パフォーマンスの様子

大学内にあるホールで日本舞踊の披露がありました。大学の吹奏楽と日本舞踊のコラボレーションです。日本舞踊を踊っていた方は日本舞踊の先生で、日系3世の方です。9歳の頃から日本舞踊を練習していらっしゃいます。私は先生の着物の着替えをお手伝いし、仲良くなりました。そのコンサートが始まる前には、日本からの留学生たちと国内の学生たちが浴衣を着て、入り口でパンフレットを手渡ししました。パンフレットを配布した後に会場に入ると、そのホールは満員で立って見ている人もいました。パンフレットにも日本舞踊のことが紹介されており、多くの人に日本文化を知ってもらえたことが嬉しかったです。



日本舞踊の先生と。私は浴衣を着ました。

—埼玉親善大使として—

2月27日に埼玉親善大使として埼玉県のことや私の住んでいる川口市についてプレゼンテーションをしました。今年の6月にフィンドレーの教育委員会の方々が川口市の教育機関の視察にいらっしゃいます。そこで、1回目のオリエンテーションとして埼玉県のこと、川口市のことをご紹介します。プレゼンテーション中やプレゼンテーション後にたくさんの質問を頂きました。私の英語が伝わっていること、また私のプレゼンテーションに興味をもっていただけたことを感じ、嬉しくなりました。